波瀾万丈

シリーズ企画［ クローズアップ校友会員 第四弾 ］

シリーズ企画「クローズアップ校友会員 波瀾万丈 第四弾」校友と交友を温めて新しきを知る

企画 東洋大学校友会
制作 鹿児島県支部 編集部

クローズアップ・奥村 司 会員

インタビュー／松下 健一／文章・春野 洋治郎・西元 大作／制作・西元 大作

始良市内の閑静な住宅街の一角にある奥村さんの自宅2階には、防音壁を施した「生きがい探し部屋」があります。カラオケセットやマジック道具・腹話術人形などが置かれ、定年後を豊かに暮らそうという人たちが集まって来ます。今は健康生きがいづくりアドバイザーとして、手帳がスケジュールで真っ黒になるほど多忙な奥村さん。明るく陽気に生き生きと動かれる奥村さんですが、決して順風満帆な人生ではありませんでした。青少年時代の苦労や家族の死という辛く悲しい記憶といった、今だから語れる話を織り込みながら、取材は延々8時間に及びました。飾らない、気取らない、生涯現役の生き様が、ここにあります。

おくむら つかさ
奥村 司

健康生きがいづくりアドバイザー
特技／マジック・腹話術 スポーツ／卓球

プロフィール

昭和11年	熊本県熊本市に生まれる
昭和20年	空襲を避け父の実家、鹿児島の加治木に転居
21年	母の実家のある蒲生に転居 母、自分、妹の三人暮らしが始まる。
30年	体育教師を目指すも大学入試で不合格 蒲生から電車で鹿児島市の予備校に通う
31年	東洋大学法学部に入学
32年	大学2年時、法学部から文学部に転部
35年	大学卒業～福平中学校教員として初赴任 以後、県内の中学校で国語教師として教壇に立つ。
平成 元年	川辺中学校で教頭職になる。
9年	上小原中学校で校長職となる。
10年	上小原中校長で定年を迎える。 健康生きがいづくりアドバイザー資格取得
11年	鹿児島県始良福祉事業所の相談員になる 相談員を皮切りに現在の精力的な活動に至る。
23年	11月23日、城山観光ホテルで金婚式

空襲を逃れ加治木へ

松下 子供の頃をお聞かせ下さい。

奥村 生まれは熊本市内です。父は陸軍中尉でしたが肺を患っていて、終戦の年の4月に陸軍病院で他界しました。10才の時でした。それから、ひと月後、昭和20年5月に熊本の街は大空襲を受け、母、妹、私の3人命だけは助かりました。その後、父の実家のある加治木へ引き揚げることになりました。しかし、今度は加治木が空襲を受け、熊本から送った駅留めの荷物が全部燃えてしまい、3人共着の身着のままで実家に厄介になり、そのまま終戦でした。

松下 終戦後は、どうなさったんですか?

奥村 長男の嫁とはいえ、夫の実家ですから母は居辛かったでしょう。翌年1月に、母の実家のある蒲生へ引っ越しました。私は長男の息子ということで実家に大切にされておりましたので、引っ越す時、母は私に「一緒にくるかどうか尋ねてきました。私は「一緒に行く」と泣いて母についていきました。

母は旧制の一高女を出ており、教職に就きました。母の留守中、私は小学校から帰ったら幼い妹に食事を作ったり洗濯したりする日々が始まりました。

奥村青年版「青春の門」

松下 中・高と学校の方は如何でしたか?

奥村 母子家庭でしたので家事や妹の面倒をみたりと勉強どころじゃない環境でした。ただ、スポーツは得意で、運動神経には自信がありました。母が教員だった影響で、自分も教員それも体育の教員になろうと思っていました。或は警察官か。いずれにせよ、金銭的に国公立に限られていたのです。

松下 その願いは叶ったのですか?

奥村 いや、悉く試験に落ちました。某国立大学では体育教員になるため高等体育を受験したのですが、それも実技で落ちまして、希望する進路は全て絶たれました。

仕方なく一年浪人して予備校に通うことになり…挫折と敗北の悲哀を味わいました。当時、田舎で浪人といえば「いい年をした若者が…」と肩身が狭かったですね。母親の負担になっているという負い目から、大学を卒業して教職に就き、一刻も早く自立したいと気持ちは強くなる一方なのに、予備校の授業内容に全くついていけず…有るのは「若さ」だけ…途方に暮れ、街をうろついたり…悶々とした暗黒時代でした。

松下 「青春の門」そのものですね。それで東洋大学を選んだ理由を教えて下さい。

奥村 鹿児島実業高校の伊勢校長(注1)からの情報でした。鹿児島実業高校で受験でき、卒業後は教職への門戸が開かれている大学が東京にあると聞きました。それが東洋大学でした。暗黒に一筋の光が差し込んできたようなものです。でも、あの当時、鹿児島から東京の私学に、母子家庭の子が行くというのは、空を仰ぐ程に敷居が高いものでした。迷いましたが、母は「行って来なさい」と理解を示してくれ、思い切って受けました。法学部に受かったのですが、まず先立つものが無かったので国や町から奨学金を、学費は大学に直談判で分割にして貰うなど押しの一手で押し通しました。

松下 直談判とは凄いですね。ところで、学生生活はいかがでしたか。

奥村 4畳半一間、2食付で月4150円の下宿住まいでした。学生運動等が盛んな時代でしたが、私は4年で卒業するのが最優先、留年して母に迷惑をかけることは出来ません。俄然ヤル気が出て、猛勉強しました。教員になるため1年後に文学部の国文学科へ転部しました。ただ、学校と下宿を往復し勉強するだけの毎日だとの足りなくなってきます。そこで卓球部や吹奏楽部等に入りました。大学創立50周年パレードでトランペットを吹いたりと、それなりに学生生活も楽しむようになりました。

教員採用、そして結婚

松下 卒業前後をお聞かせ下さい。

奥村 待てども教員採用の通知が来なかったので、自分から鹿児島県教育委員会へ押しかけて、確認に行ったのです。すると翌日、採用の電報が届きました。

松下 自ら、採否確認に出向くとは豪気ですね。

奥村 はい、何が何でも教員になるんだという思いが強かったですからね。そう言いながらも実は、教員になって直ぐに結婚したんですよ。やっと自分一人食えるか食えないか?の頃です。

松下 いよいよ奥様の登場ですね。

奥村 妻は中・高時代の同級生でした。大学時代、遠く離れた東京におりますと、彼女が思い出され、春休み、夏休み、正月には必ず鹿児島へ帰っていました。彼女を誰かに奪われはしないか(笑)と心配だったのです。結婚が早かったのは、母子家庭で育ったので、早く自立して暖かい家庭を築きた

❶父 巌(いわお)・母 幸(さち)
(昭和10年頃?)
お父様は陸軍中尉だったとのことですが、お借りした70年以上前のアルバムには若い頃のお父様の写真が沢山ありました。お父様はモダンでインテリな方だったようで、奥村さんを外交官にしたいと思っておられたようです。

❷幼児期(昭和12年頃)

❸高校生の頃の2ショット
隣の女子学生は現在の奥様です。(昭和28年頃)

波瀾万丈

シリーズ企画［ クローズアップ校友会員 第四弾 ］

かったからです。

先生になってから勉強

松下　教員時代の話をお聞かせください。

奥村　初任は福平中学校（昭和35年）でした。バレー部の顧問を任され、ボールが見なくなる夕方遅くまで熱血指導をしていました。その後、県内の中学校を転々として、川辺中（平成元年）で教頭、上小原中（平成9年）で校長を務めさせていただきました。

松下　教職にあった37年の間には、いろいろとご苦労があったかと思いますが。

奥村　国語の教師ですから、教科書に出てくる作品は全部読もうと、暇さえあれば学校の図書館に籠っていました。「奥村は図書館におっど」と職員間では有名でした。

管理職になってからは、難儀な諸々の交渉の矢面に立たなければならず、大変な仕事でした。孤軍奮闘することも多々ありましたが、自分の信念を貫いてきたつもりです。

自慢の息子の死

奥村　一度だけですが、教員を辞めようと真剣に思ったことがあります。

松下　それは、いつのことですか？

奥村　川辺中学校の教頭時代です。長男がスキルス性胃がん（注2）で亡くなったのです。

松下　詳しくお聞かせ下さい。

奥村　自慢の息子でした。大手情報機器会社に就職し、世界中を飛びまわっていました。ところが、がんを患い、11ヶ月にわたる入院の内に意識が薄れていき、自分の病室すらわからなくなっていきました。私は早朝から深夜まで仕事に追われ、息子のそばにいてあげられなかったのです。その時、初めて息子に婚約者がいることを知りました。休みの都度に東京から駆けつけて下さいました。

松下　家族皆つらかったでしょうね。

奥村　なんとか時間を調整して病室へ駆けつけると、妻と医学生だった二男が長男のそばで明るく振る舞っていました。看病する妻と二男、婚約者、その婚約者すら分からなくなった息子、現実を見ることが辛くて、気力が段々なくなっていきました。

そして長男は、29歳の誕生日の前日に息を引き取りました。

松下　言葉がでませんね。

奥村　しかも、息子が息を引き取った直後、看病疲れで妻が倒れてしまいました。今度は妻の看病と私の転勤が重なり「もう仕事を辞めよう」と追い込まれました。ところが、そんな私に二男がこう言いました。「辞めてどうするんだ。乗り越えて、しっかり生きていかなきゃ」。そのひと言で、生きていくことに真摯に向き合おうと決心しました。しかし、本当に立ち直るには、少し時間がかかりました。

どん底から生き甲斐へ

松下　先輩は定年後、いろいろと精力的にがんばっていらっしゃいますね。

奥村　定年前は、暫くは長男のこともあり、塞ぎ込みがちな日々でした。「悠々自適の定年後」ですね？と話かけられるのが苦痛でした。これからどうやって前向きに生きていこうか自信もありませんでした。そんな時に目にしたのが資格「健康生きがいづくりアドバイザー（注3）」でした。興味を持ち読むうちに…**家族をはじめ、いろいろな人のおかげで自分がある。莫大な国の医療費のおかげで長男や母は高度な医療や手厚い福祉を受けてきたし、妻は今もその恩恵にある。自分に出来ることで何か恩返しをしたい**…体の奥からそんな強い思いが湧いて来たのです。それからは資格取得のため猛勉強しました。その時点で「悠々自適の定年後」ではなく「生涯現役」を選んだことになります。

松下　いよいよ先輩の本領発揮ですね！

奥村　定年退職した勢いで、大阪に三度出向き、アドバイザーの資格を取得しました。

翌年の平成11年には県姶良福祉事業所の福祉相談員として七年間務めることになりました。その間にアドバイザー間の交流も生まれます。月に一回反省会と称して飲み会をするような仲になり、気が付くとすっかり立ち直っている自分を発見しました。

日本は長寿世界一を誇っていますが、重要なことは健康な高齢者であること、寝たきり、入院、介護のお世話にならないことが、社会に奉仕することだと思っています。自分もその為に卓球を週に6日やっています。健康の為に卓球を週に6日やっています。

先のアドバイザー仲間と始めた「らくらく体操教室」は10年を迎えます。講話・マジックなどいろんな活動に走りまわっております。手帳が真っ黒になっていくのが嬉しいですね。これからも人が楽しいと思うこと、高齢者が元気になることなら、どこへでもボランティアに出かけていきたいです。

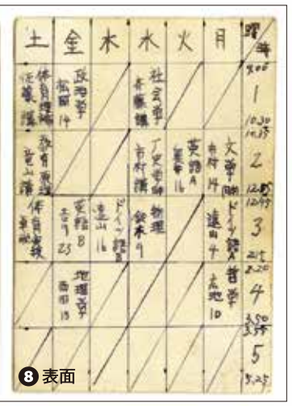
東洋大学・校友・後輩達へ

松下　実に素晴らしい話です。では、最後になりましたが、東洋大学と後輩に対してメッセージをいただけませんか？

奥村　私の人生は東洋大学が無ければあり得ませんでした。感謝しています。秋丸支部長（注4）時代から校友会は参加しています。また、大学は私の時代からは比べものにならないほど発展し駅伝や野球など好成績を納め、校友として嬉しい限りです。創立125周年に向けてさらなる飛躍と発展をお祈りします。後輩の方々へは、恐れ多いのですが「正しいことをして、人を恐れるな」という言葉をおくりたいと思います。

松下　ありがとうございました。

❾ウラ面



❽表面

❼

当時の男子大学生は制服姿が普通だった。

❿

⓭

⓬

⓫

⓮

❼東洋大学吹奏楽部の仲間達と。予備校時代の暗さは何処へやら？（昭和34年）
❽学生時代に携帯していた時間割表。
❾時間割表の裏面は看護師姿の奥様の写真！
❿結婚式の時のスナップ（昭和37年）
⓫卓球交流大会（ねんりんピックふくおか 平成17年）
⓬鹿児島県健康いきがいづくりアドバイザー協議会の仲間達と反省会（平成21年）
⓭読売新聞に健康いきがいづくりアドバイザーの活躍ぶりを取り上げられる（平成17年）
⓮浩平くんと。エンターテイナーの本領発揮。校友会支部総会で（平成18年）

かお遍歴

幼少期

10代後期

20代後期

40代中期

現　在

❻

❺

❹

❹教員時代（昭和40年代）
❺福平中学校で初めて担当を受け持った時の卒業写真（昭和38年）
当時の教え子達にとって奥村さんは先生というより「お兄さん」という感じだったのではないでしょうか？
❻教え子達の還暦パーティーで。上記の福平中の生徒達も還暦を迎えた。（平成21年）

【注釈】

（注1）伊勢校長
伊勢虎夫（いせ とらお）
○東洋大学卒（昭和16史学）
○校友会 第3代 鹿児島県支部長（昭和38年～45年）

（注2）スキルス性胃がん
スキルス胃がんとは胃がんの種類の中で最も悪性度の高いがんとされている。症状が現われた場合には進行していることが多いため生存率は低く、余命と向かい合わなくてはならないほどの末期の状態であることもある。アナウンサーの逸見政孝さんもスキルス胃がんでした。

（注3）健康生きがいづくりアドバイザー
厚労省所管の「健康・生きがい開発財団」が認定し、中高年の在職中とリタイア後の健康生きがいつくりを、企業や地域で専門的に支援するコンサルタント。養成講座か通信講座を修了し、資格審査試験に合格することが必要。
健康・生きがい開発財団　http://www.ikigai-zaidan.or.jp

（注4）秋丸支部長
秋丸光良（あきまる みつよし）
○東洋大学卒（昭和6倫東）
○校友会 第4代 鹿児島県支部長（昭和45年～60年）
○学校法人 東洋大学理事（昭和54年～60年）